

コロナ禍でも絶やさない支え合い活動



現在も新型コロナ感染者は増加傾向にあり、今後も感染防止に留意しながら、孤立をうみ出さない地域づくりを進めることが求められています。その取り組みの1つが「地域支え合いマップ」作りです。地域のつながりの希薄化などによる地域住民の孤立や日常生活の不安をなくすため、マップを用いながら、地区の自治会長、民生委員児童委員、福祉委員、地区社協役員らが協力し、見守り体制の強化を図っています。

地域支え合いマップとは・・・

地域の中で日常的な見守りや災害時に支援が必要となる人を確認し合いながら、その情報を住宅地図に落とし込み、目に見える形にしたものです。

- 目的 ①見守り体制の強化 ②災害時の要支援者の把握
③情報の継続性 ④地域課題や社会資源の発掘



今年度も各地区で
地域支え合い
マップ作りを
行っています!

足羽地区



日常的な見守りをしやすくするため、用意した地図を見ながら、見守りが必要なひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、災害時要支援者、その他見守りが必要な世帯にマーカーや色シールを貼っていきます。

酒生地区



シールを貼った世帯がどのような生活をされているのか、わかる範囲で話し合います。日中の生活の動きがわからない場合や、だれともつながっていない世帯がないか確認し、地図の上だけではわからないよりいきた情報を共有します。



円山地区

ガイドブック「支え合いのすすめ」



円山地区社協では、日頃の見守り活動に、ガイドブック「支え合いのすすめ」を活用しています。

このガイドブックは、支え合い活動のさらなる充実のため、令和2年に独自に作成したものです。「見守り活動において気を付けたいこと」や「見守りのエピソード」について載せており、コロナ禍の現在においても、自治会の役員の方々をはじめとして、福祉委員、民生委員児童委員が、見守り活動に役立てています。表紙のキャラクターは、公募で採用した円山地区支え合いマスコット「まるちゃん」です。ガイドブックだけではなく、広報誌や封筒、チラシ、回覧板に使用するなど、大活躍しています!